

H

入院診療計画書

新生児一過性多呼吸で入院される

@PATIENTNAME

様のご家族へ

産科

4階北病棟

442室

患者番号

@PATIENTID

H

主治医氏名		医師： 印				
主治医以外の 担当者 氏名	担当医師	医師： その他下記に示すコメディカル等				
	看護師長					
	管理栄養士					
病 名		新生児一過性多呼吸		【患者または代理者同意署名】 年 月 日 氏名 *代理署名の場合 患者との続柄 （ ）		
症 状		多呼吸、チアノーゼ				
手 術		（ あり ・ なし ）				
特別な栄養管理の必要性		（ あり ・ なし ）				
入院治療の目標（達成目標）		・呼吸が正常回数になる。・哺乳ができる。・体重が増加する。				
推定入院期間	入院日（ 月 日） 出生当日	生後 1 日目	生後 2 日目	生後 3 日目	生後 4 日目	生後 5 日目以降（退院日）
注射 ・ 内服	☐ 生後2回目の授乳時にビタミンK欠乏症（頭蓋内出血）予防のためにビタミンK2シロップを飲みます。	なし	なし	なし	なし	☐ ビタミンK欠乏症（頭蓋内出血）予防のためにビタミンK2シロップを飲みます。
検査	☐ 体重、身長、頭位、胸囲などの計測を行います ☐ 医師が出生時診察を行います ☐ 出生直後、1、2時間後、以降は児の状態に応じて呼吸状態、全身状態などの観察をします	☐ 1日3回、体温・脈拍数・呼吸数の観察（検温）を行い、全身状態や哺乳力、皮膚の色を観察します ☐ 1日1回体重測定を行います ☐ 1日2回黄疸の検査を行い、必要時採血をします ☐ 生後2日目、またはコット（新生児用のベッド）移った後に聴力検査を行います				☐ 生後5日目に先天代謝異常検査を行います ☐ 黄疸の検査（採血）を行います ☐ 退院診察を行い、問題なければ退院できます
処置	☐ 感染予防のための点眼をします ☐ 保育器の中で過ごし、酸素を使用します ☐ からだの酸素濃度を測定するモニターを装着します	☐ 児のからだの酸素濃度をモニターします（赤ちゃんの状況に応じて終了したら、母児同室ができます） ☐ 医師の診察で保育器内の酸素を減らし、児の状況によって酸素を中止します ☐ 酸素が終了し、児の全身状態がよければ保育器からコットに移ります				なし
教育 ・ 説明 ・ 指導	☐ 医師から赤ちゃんの症状や治療について説明があります ☐ お母さんの状況で授乳・搾乳方法、おむつ交換などの説明をします	☐ 授乳指導（帝王切は2日目） 先天代謝異常検査・聴力検査・ ビタミンK2シロップの内服の説明 や授乳・搾乳方法、おむつ交換などの説明をします	☐ 沐浴指導 （帝王切開の方は3日目）	☐ 沐浴実習 （コットへ移り、体の酸素濃度を測定するモニターが外れてから行います） （帝王切開の方は4日目）	☐ 退院指導 （退院後の授乳や育児等について説明します） ☐ 必要時、母乳外来の予約をします	☐ 入院費の支払いは保険証に赤ちゃんのお名前が入ってからになるので、退院前には支払誓約書を記入していただきます ☐ 退院後の授乳方法などを最終確認します
安静度	なし	なし	なし	なし	なし	なし
食事	☐ 出生8時間後から哺乳（ミルクまたは搾母乳）を開始します ☐ 3時間毎に授乳を行います。 (1時、4時、7時、10時、13時、16時、19時、22時) ☐ 母の搾母乳があればそれを飲み、足りない場合はミルクを追加します	☐ 保育器内にいる時は3時間毎に哺乳瓶で授乳します。 ☐ 保育器から出てからは直接母乳ができ、自律授乳(泣いたら授乳し、泣かなくても3時間経ったら授乳する方法)になります。 ☐ 母乳分泌の状況で必要時はミルクまたは搾母乳を追加します。				
排泄	☐ 授乳の前後や泣いたときなどにおむつ交換をします					→
清潔	☐ 出生直後にからだの羊水や血液などを拭き取ります ☐ 授乳の前後や泣いたときなどにおむつ交換をします	☐ 保育器にいる間はからだを拭きます	☐ 保育器から出たら沐浴を行います			→
リハビリ	なし	なし	なし	なし	なし	なし
その他	赤ちゃんの譲許によって、小児科NICUやGCUに行くことがあります	なし	なし	なし	なし	なし

*病名等は、現時点で考えられるものとなりますので、今後検査を進めていくうえで変更される可能性があります。
*入院期間については、現時点での予想となっており、状態に応じ予定が異なることも考えられます。
*何か質問がある際は医療者にお尋ね下さい。

山梨大学医学部附属病院

〒409-3898 山梨県中央市下河東1110番地 TEL:055-273-1111(代表)

2022年7月改訂